

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県南会場＞

科目 ⑯放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 子どもにとって児童クラブとは、生活に必要な事をしたり、自主的に学習をしたり、集団生活を学んだりする所である。私たち支援員は子どもたちがそこで安心して過ごせるように援助していかなければならないと感じた。また、子どもや保護者の人権に配慮すること、法令遵守の必要性についても詳しく学べた。遊びの面での関わりの工夫についても学ぶことができ、大変充実した研修だった。早速実践してみようと思う。
- ◆ 放課後児童クラブにおける職員集団のあり方に示されていた情報交換や情報共有の必要性は、とても重要だと思いました。子どもの様子などが事前に分かっていれば、自分がするべき支援を導き出す助けになり、また余裕のある見守りもできると思いました。職場でも適切な分担と協力を心掛けて育成支援を行っていけたらよいと感じました。また、自分自身の能力や知識を高める努力を続けていきたいと思いました。
- ◆ 子どもへの育成支援の内容や、子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにしていくための育成支援の留意点を学び、子どもが進んで放課後児童クラブ通いを続けられるよう援助することの難しさを感じた。子どもと保護者との信頼関係を築くためにも、社会的信頼を得て、一人ひとりに応じた支援に取り組むことが重要となる。私たちの言動は子どもや保護者に大きな影響を与えるため、支援員は社会的責任と倫理を意識し、支援する姿勢が大切だと感じた。
- ◆ 集団生活を豊かにしていくために、子どもの権利に関して絵本や書籍で理解してもらえるように努めること、保護者や関係機関との連携がスムーズに取れるように日頃から信頼関係を築いておくことが大事である等の内容を詳しく学びました。異年齢で過ごす中での工夫や一人ひとりに寄り添った支援をするために職員間での情報共有、守秘義務を守る等の倫理も念頭において支援できればと思います。
- ◆ 放課後児童支援員に求められる資質や技能、社会的責任と職場倫理について学ぶことができました。また職員集団のあり方では、情報交換や情報共有の大切さを学びました。保護者が安心して仕事ができるように、日々の様子を肩の力を抜いて笑顔で伝えたり、子どもたちが主体的に生活できるように一人ひとりの気持ちに寄り添った言葉掛けができるよう心掛けたりして、しっかり信頼関係が築けるよう日々丁寧な支援をしていきたいです。